

kirari yokkaichijin Vol.118

きらり四日市人

四日市メリノール学院中学校
女子バスケットボール部顧問

稲垣愛さん



令和4年1月に開催されたジュニアウィンターカップで2連覇、同年8月にも全国中学校バスケットボール大会を制すなど、創部わずか4年目のチームを日本一という快挙に導いた、本市出身の稲垣愛さんにお話を伺いました。

小学5年生でバスケットボールに出会う

転校した先の小学校で友人に誘われ、皆と仲良くなれるならと始めました。その後、高校3年生のときに県で2位に、大学では3・4年生のときに東海地区の中でアシスト王に選ばれ、4年生のときに全日本大学選手権大会に出場しました。卒業後は会社に勤めながら国体選手としてプレーしました。その頃、中学時代の恩師に声を掛けていただき、朝明中学校の外部コー

チとして女子中学生を指導することになりました。子どもたちの真剣な姿を見て中途半端なことではできないと思い、勤めていた会社を辞め、指導に専念することにしました。

平成29年に、四日市メリノール学院から顧問の誘いを受けました。外部コーチという立場だと、普段の子どもたちの様子が分からないと感じていたので、子どもたちという時間を増やしたいと思い、教員として移ることを決めました。

全国に導くために

特別なことはしていないと思っています。ただ、常に子どもたちに言っていることは、「失敗してもいい」そして「自分で考えろ」です。失敗したその後をどうするかを自分で考えることで、その失敗が子どもたちの成長につながると考えています。今子どもたちは、試合を自ら分析しチームで話し合うなど、ジュニアウィンターカップ3連覇に向けて切磋琢磨しています。

人間的にも成長してほしい

バスケットボールができる期間は限られていて、その後の人生の方が長い。社会に出たとき周りの人に可愛がってもらえるようなことに気付く力をつけてほしくて、朝は、シュート練習などではなく、校内の草抜きをしています。トイレの汚れに気付いて拭く、なくなったボトルの水を足すなど、誰でもできることを率先して行う子どもたちの姿を見ると成長を実感します。部活動の指導はもちろんですが、その後の人生も見据えて子どもたちに全力で向き合っていきたいです。



ドリブルをする稲垣さん(大学4年生時)



全国中学校バスケットボール大会で優勝



一人ひとりを丁寧にみる稲垣さん

1月放送のCTY-FM「よっかいち わいわい人探訪」でも紹介します。(放送時間は裏表紙へ)